

シリーズ7 表彰制度について

過去の遺産を、精算するのか！

社員・家族に暖かい制度の確立を目指そう！

「新しい人事・賃金制度の見直しについて」議論を深めよう！

会社は、「新しい人事・賃金制度等」の見直しで表彰制度の改正を提案してきました。内容は、15年表彰・郊績章を廃止、30年表彰・60歳到達時報労の新設。運転無事故表彰制度の廃止です。

郊績章は、国鉄時代から継承されていて、永年勤続してきた社員（家族）の労をねぎらう制度でJR発足以降もJR各社でも存続されています。今回、あえて郊績章を廃止する意図は何なのでしょう。

かけ声だけでは安全は確立できない！

運転無事故表彰制度廃止はモチベーション低下に繋がる

会長・社長の年頭の挨拶から始まり、会社はことあるごとに「安全」を枕詞にしています。「安全」は人事評価の一番の項目であるべきです。

本部・本社間の交渉で会社は、運転無事故表彰制度の廃止理由を「業務運営に関わる全てが重要な業務であり、運転業務に従事する社員のみを表彰する制度である運転無事故表彰制度を廃止した。新設する職務手当において、運転関係の業務については他より高く設定している」と回答しています。しかし、現行の乗務員特殊勤務手当からすれば新設の乗務員手当は減額となります。これでは、改正ではなく改悪としか言えません。制度改正なら現在、無事故表彰制度が適用されない職種にも日の目を当てる必要があるのではないのでしょうか。

責任感・プロ意識は、かけ声だけでは醸成されません。会社は言葉だけでなく安全に寄与した社員に形で報いるべきです。

職種の特殊性を認めない制度改正は問題だ！